

開会のごあいさつ S.ドルゴル モンゴル日本語教師会会長



皆様こんにちは。大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございました。嶋田和子先生、本当にお忙しい中今回のシンポジウムのためにお時間を作り、再びはるばるモンゴルにお越しくださいましたこと、深くお礼申し上げます。

今回のシンポジウムはスタンダード関係の6回目のシンポジウムになります。日本語教育が次第に変わっていく中、モンゴルなりの日本語教育を目指して頑張っている日本語の先生方皆様のおかげで、今までやってきました。ありがとうございました。シンポジウムの準備から実施までいろいろご協力くださいましたモンゴル日本人材開発センターの皆様、日本語教育研究会・運営委員会の皆様、そしてJF日本語教育スタンダード実践の指導教官にあたる片桐先生及び浮田久美子様に変更して感謝を申し上げたいと思います。また、モンゴルの日本語教育をいつも支援してくださる在モンゴル日本国大使館の方々にも感謝の意を表したいと思います。

スタンダード研究・実践では、もちろん全員が全く同じ目標に向かって全く同じ内容を教えるような教育を目指しているわけではありません。しかし、外国語教育の新たな理念、教育目標、学習目標とともに、それらを達成するためのカリキュラムデザインや授業設計の方法、さらには具体的な学習活動や学習内容を提案するものであるという点で、スタンダードは大きな意義を持っているのではないかと思います。また、各学校やクラス間の横の連携が確立することにより、学習者は一貫性のある学習を継続することができるようになるのではないかと思います。さらに、日本語の先生方が、共通の教育目標を始め、内容や方法を話し合える状況を作ることも重要です。このような理由から、今回のプロジェクトは大きな意義を持っています。

プロジェクトの結果が、モンゴルの各日本語教育機関の先生方に共有され、教材開発、教師研修、あるいは高校と大学間の連携を図るための共通の枠組みになることを期待しております。さらに、これがモンゴルの外国語教育全体を推進するための小さな一つの石となればと願い、今回のあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。